

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月6日～

10月1日から米国が政府閉鎖となっているため米国の重要な経済指標の発表が延期になるなど情報が少ない中での取引になっています。先週末に発表予定だった雇用統計も発表が延期されました。今週予定されている指標のいくつかも延期される可能性があります。

先週の為替相場は大きな動きもなく、ドル／円は再びレンジの中に戻ってきたような方向感のない動きとなっています。

なぜか米国の利下げ期待だけは根強く、リスク資産の上昇が続いています。

日銀は今月利上げするかどうかが不明で、最近では日銀関係者がややハト派(金融緩和的な政策を支持する傾向)的な発言をしていることも円高リスクが落ち着いている要因になっています。

株は日米ともに強く、日経平均は最高値更新の動きが続いています。

自民党の総裁選で高市さんが勝ったので、週明けは株高・円安になるかもしれませんが材料出尽くしで、その後下げてくるリスクもあります。

米国内に工場を置くトヨタ自動車やホンダなどへの関税軽減措置のニュースも株価にはプラスに働きそうです。

高市さんが勝ったことで、今月の日銀の利上げが遠のいたという声もありますが海外の動きや米国からの圧力があれば利上げに踏み切る可能性はあります。

また、高市さんは国債を発行して金融緩和するアベノミクス路線を引き継ぐと言っていますが、今年に入ってから債券市場が日米ともに不安定になっていることを考えると債券市場の波乱からマーケットが混乱するというリスクもありえます。

英国のトラス政権で起こったように、減税政策や金融緩和は財政不安のある状況では通貨や国債の下落を引き起こします。

日本は英国よりは財政的に安定していますが、大規模緩和の悪影響(物価高など)がすでに出ている状況で金融緩和方向へ舵を取れるのか不安な面もあります。

為替相場は停滞した動きに見えますが株、仮想通貨、金(ゴールド)などは加熱し過ぎに感じます。国内では金の現物が手に入りにくくなるなど、9月以降の急激な金価格高騰で慌てて金を買求める人も増えているようです。

原油や穀物など金や銀以外の先物相場は高騰していないため投資マネーが一部の金融資産に急激に流れ込んでいる状況です。

相場サイクルで考えると4月初めの底から半年経つので、流れが変わってくる可能性もあります。米国株がどこまで上昇するかもポイントになってきます。米国株が堅調な場合は、高市トレード(円安・株高)が続く可能性もあります。

ただし、円安が進み過ぎると日銀が利上げに動く可能性が出てくるため、極端な円安を期待してトレードするのは危険です。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

中国は8日まで国慶節で休場となっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は週の前半は下げましたが 146 円台半ばで下げ止まり、週後半は戻してきました。

先週安値の146. 5円を維持できれば堅調な動きが期待できそうです。

146. 5円を割り込むと 9 月安値の145. 5円あたりのサポートで下げ止まるかです。

ここも割り込むと円高リスクが高まるため注意がいります。

上値は148. 3円を超えると149 円が視野に入ってきます。

ただし、150円手前には抵抗があるので、利益確定を考えながらトレードしたいです。

<気になるクロス円>

先週は下げているペアも多く、週明けの上昇に期待したいです。

上値が重くなってきた場合は、利益確定をしながら様子を見たいです。

また、春からずっと上昇が続いているスイスフランがどこまで上値を伸ばすかも見ておきたいです。

ユーロ、フランは円に対して高値更新していく可能性もありそうです。

逆に、反落してくると流れが変わってくるかもしれないため注意がいります。

カナダドルは週足や月足でも形があまり良くないため安値更新の動きには警戒したいです。

NZ ドルは今週、利下げに動くという予想のため動きに注意。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 8 月貿易収支などがあります。

米国では 8 月貿易収支、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、10 月ミシガン大学消費者信頼感指数、9 月月次財政収支などの発表があります。

欧州では、ユーロ圏で 8 月小売売上高、ラガルド・ECB総裁発言、ドイツで 8 月製造業新規受注、8 月鋁工業生産などがあります。

ほかには、ニュージーランドで政策金利、カナダで 9 月失業率の発表などがあります。